

次世代が育ちやすい 魅力ある会社づくり



有限会社 堤建具工業

代表取締役 堤 健雄 さん

住所…大川市大字新田99512
TEL…094418713507
FAX…094418713557

今月の夢追い人は、(有)堤建具工業の堤さんに話を伺いました。

堤建具工業は昭和21年創業され、堤さんが四代目の社長になられるとのこと。では、堤建具工業では主にどのような事業をされているのでしょうか。

「量産タイプの建具製造や施工、管理まで行っています。それに付随する木枠であったり、造作材、棚板や幅木などの施工や管理も行っていますね。賃貸マンションやホテルなどの大型物件での施工もよく行っています」

現在は9名の従業員が在籍している堤建具工業。大川に

も多数在る建具屋のなかで、堤建具工業ならではの特色は何かあるのでしょうか。

「一番の特徴は従業員の年齢層かなと思います。20代の若手から60代のベテランまで在籍しているので、機動力やマシパワーがあるなど感じています。それから今後長い目で見たときに、職人を育成できる環境が整っていると思います。どの業種にも共通することだとは思いますが、建具職人として若い世代を育てるのが一番の課題ですからね」

様々な世代が揃っている従業員には、積極的に声掛けをするよう心掛けていると話された堤さん。

「まだ『見て学べ』という文

化が残っている職業なので、私が工場へ入るときにはこちらから声を掛けるようにしています。若い世代がベテランに声を掛けやすいような、報連相ができる体制を整えるようにしたいですね。それから今は20〜30代が3人いますが、そのうち2人には一級技能士資格を受験してもらおうと考えています。そういうチャレンジングをして、より勉強に励んでもらえたらなど。取得することによって、知識や技術の習得はもちろんです。本人たちの自信にも繋がりますからね。積極的にチャレンジしてほしいです。一言で、建具と言っても、扉や窓、ふすまなど種類は様々あります。また、木材も種類がありますし、

福岡県建具組合連合会会員





CADでの作業

性質もまた異なります。建具がゆがまないように、ノミやカンナなどの道具を使って細かい手作業が必要ですからね」

地元大川はもちろんのこと、遠くは沖繩まで施工へ行かれることもあるとお話された堤さん。取材の翌日も作業のために沖繩へ行かれる予定とのこと。

「ここしばらくは新型コロナ感染症の影響で作業が止まってしまうことが多々ありまし

た。少しずつ再開するものもありますが、施工そのものが中止になることも少なくなかったですね」

今年に入ってから徐々には中断されていた物件が動き始めていると話された堤さん。主に大型物件の施工を担うことが多いとも話されていますが、個人宅の別注等も行われているのでしょうか。

「建具はもちろんですが、家具も対応しています。CADで図面を書いて、お客様と相談しながら製作・施工を行っていますね。ただ人それぞれ好みがありますので、お客様の意向に沿うというのは難しいなと感じています。これといってデザインの勉強はしていませんが、長年建具屋として過ごしてきた感性と街にある建物を見て日々情報を蓄積しています。建物を見ると自然と建具に目が行ってしまいますね。自分好みかそうでないか、流行りなのかどうかなどを見て感性を高めています」

社長に就任されて今年で4年目になる堤さんですが、幼い頃から家業を継ぐことを考えられていたのでしょうか。

「物心ついた頃には、先代である父から『お前は建具屋になるんだぞ』と言われ続けてきたこともあり、いつかは継

ぐものだとおもって育ってききましたから、家業を継ぐことには全く迷いはなかったですね。小中学生の夏休みなどには、工場に入っって手伝ったり、現場搬入にもついて行ったりしていました。正式に会社に入っって20年が経ちますが、入社してすぐ、いきなりパソコンの前に座らされて『図面を書け』と言われて書いたのを今でも覚えています。先代が手取り足取り教えてくれるというわけではなく、やはり見て学びながら、独学で覚えま

した」

幼い頃から建具に触れ続けてきた堤さん。では、堤さんにとっの今後の課題などはあるのでしょうか。

「最近だと既製品の建具が普及してきていますね。ハウスメーカーに納めるような大手メーカーが作る建具や室内ドア、内装ドアが多くなってきたなかで、別注で受けて作っている我々のような建具のシェアが低くなってきています。そのなかで生き残っていく道を模索していくことが必要だなと考えています。例えば大手メーカーが得意ではないような無垢のドアの量産に対応していければ、それは大きな差別化になりますからね」

また現在、大川建具事業協



建具の施工例

同組合の青年部、木建会の会長を務められている堤さん。木建会の活動についても伺いました。

「今は建具屋さんの後継者や従業員、8名で活動をしています。新型コロナ感染症で集まるのが難しい中でも、建具を知ってもらうことは必要だと思っています。木工まつりや昨年、大川テラツツアで行われた、ものづくりマルシェにも木建会として、組子体験を行いました。建具は、生活空間において様々な役割を果たしていますので、今後も広報活動を継続的に行っていきたいと考えています」

社長として、日々業務に励まれている堤さん。そんな堤さんの夢はなんでしょうか。

「現在4歳の息子がいますが、

その息子に継いでくれとは言えませんが、自分の背中を見せて、本人から継ぎたいと言ってもらえるような、魅力ある会社にしていくことが夢です。余談ですが、私が代表に就任した日と息子の誕生日が一緒なので、少しばかり運命的なものを感じてしまいましたね。それから社長になって背負うものが増えました。これまでは一従業員として好き勝手に動いていましたが、従業員やその家族、それから会社全体を見て動いていかなければと感じています。考え方も大きく変わりました。ひとりの社長として従業員に尊敬してもらえようという行動、仕事を心がけていきたいですね。従業員たちにも私の背中を見て、意識を高めてもらえたらとても嬉しいですよ」